

保安検査に関する有識者会議に係る中間とりまとめ概要

保安検査をめぐる情勢

- ・国際的なテロの発生
- ・日本国内で予定されている国際的イベントやインバウンドを含めた今後の航空需要の増加
- ・保安検査員をめぐる構造的な課題（人手不足、技能向上、労働環境改善等）

保安検査の量的・質的向上など航空保安対策の充実を図る必要

課題解決の主な方向性

①保安検査の位置付け

【課題】

- ・保安検査の明確な法的位置づけがなく、旅客の協力を得にくい、毅然とした姿勢で検査に臨みにくい

【方向性】

- 保安検査の法律上の根拠の明確化
 - 旅客等に対し保安検査の受検を義務付け（未受検の場合には罰則）
 - 預入手荷物検査の義務付け
- 保安関係職員に対する業務妨害への対応の検討

②関係者の役割分担・連携強化

【課題】

- ・検査の確実な実施や事案への迅速な対応のため、複数の関係者による連携強化や国のリーダーシップの強化が急務

【方向性】

- 国はハイジャック・テロ等の防止に関する「基本方針」を策定
 - ＜基本方針の内容＞
 - 国の役割の明確化（主体的に全体をマネジメント、課題の検討・関係者との調整を主導）
 - 航空会社、空港会社等関係者の役割の明確化、連携
 - 保安検査等の実施体制強化、検査能力向上 等
- これに基づき、国は関係者へ指導、助言
- 関係者の役割分担、連携強化について継続的に検討

「基本方針」に反映

③保安検査の量的・質的向上策

【課題】

- ・離職率の高い検査員人材の確保・育成や今後の航空需要の増大に対応した検査の高度化など、保安検査の現場における量的・質的向上が課題

【方向性】

- 検査業務の受委託に係る基準の策定
- 国による検査会社への指導・監督の強化
- 更なる先進機器の導入推進や検査員の労働環境の改善（財源の充実を含む必要な対応策を継続的に検討）